

ソフトウェアメトリックス調査(保守-システム保守・保守プロジェクト)2018

Q0 貴社・事業部の概要(この内容は Q1 以降とは切り離され、外部に漏れることはありません。)

貴社名・事業部名称	(フリガナ)		
御住所(報告書送付先 ^{注2})	〒		
業種 ^{注1}	従業員:	人	売上高 ^{注3} : 百万円
プロジェクト名(番号でも可)			

注 1: 下記の業種区分から1つ選択し、該当する番号をご記入ください。

注 2: 上記御住所・事業部宛てに報告書をお送りします。

注 3: 銀行は経常収益高、保険は収入保険料又は正味保険料、証券は営業収入高を基準とします。

<業種区分>

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 食料品・飲料・たばこ・飼料製造業 | 15. 建設業 |
| 2. 繊維工業 | 16. 電気・ガス・熱供給・水道業 |
| 3. パルプ・紙・紙加工品製造業 | 17. 映像・音声情報制作・放送・通信業 |
| 4. 化学工業 | 18. 新聞・出版業 |
| 5. 石油・石炭・プラスチック製品製造業 | 19. 情報サービス業 |
| 6. 窯業・土石製品製造業 | 20. 宿泊・飲食・旅行サービス業 |
| 7. 鉄鋼業 | 21. 運輸業・郵便業 |
| 8. 非鉄金属・金属製品製造業 | 22. 卸売業 |
| 9. 電気機械器具製造業 | 23. 小売業 |
| 10. 情報通信機械器具製造業 | 24. 金融業・保険業 |
| 11. 輸送用機械器具製造業 | 25. 医療業 |
| 12. その他機械器具製造業 | 26. 教育・学習支援 |
| 13. その他の製造業 | 27. その他の非製造業 |
| 14. 農林漁業・同協同組合、鉱業 | |

ソフトウェアメトリックス保守調査票は、

第一部「全社の保守について」

第二部「システム保守・保守プロジェクトについて」

の二部構成となっております。

本調査票は、第二部「システム保守・保守プロジェクトについて」、です。

第一部「全社の保守について」については、各社で1つの回答、第二部「システム保守・保守プロジェクトについて」については、ご担当のシステムプロジェクト毎に回答、となります。

それぞれ回答票(エクセル)が異なりますのでご注意ください。

※※回答様式にご注意ください※※

◆第一部「全社の保守について」⇒ 各社で1つ回答ください

回答様式: ソフトウェアメトリックス調査(保守回答票-全社)2018(EXCEL)

◆第二部「システム保守・保守プロジェクトについて」⇒ システム毎、プロジェクト毎に1つずつ回答ください

回答様式: ソフトウェアメトリックス調査(保守回答票-システム保守・保守 PJ)2018(EXCEL)

第二部 システム保守・保守プロジェクトについて

Q2.1 当該システムの対象業務 対象とする業務の種類をお答えください(複数選択可)

1. 商品仕様書・約款 2. 法規制 3. 基幹業務 4. 制度・管理会計 5. 財務 6. 予算・事業計画 7. 購買
8. 営業・CRM・コールセンター 9. マーケティング・情報分析 10. 設備管理 11. 企業ポータル・コミュニケーション 12. 研究・開発
13. 人事・給与 14. 管理一般 90. その他()

Q2.2 保守対象の内容種別 今回の回答に該当する単位をお答えください

1. 対象システム単位 ・システム単位に1年間で種々の目的で保守したものの合計で回答
2. テーマ別の保守(組織変更対応、消費税など法規制対応) ・各システムにわたる目的別改修(保守)で回答

「2. テーマ別の保守」の場合、その保守プロジェクト名・テーマ名をお答えください
()

Q2.3 当該システム規模 当該システムの現時点でのシステム規模についてお答えください

()FP値 ()SLOC値*

()言語(主要言語の種類をご記入ください)

()画面数 ()帳票数

*SLOC 値はコメント行および空行を含まない数字をご記入ください

*プログラム自動作成ツールを使用した場合の SLOC 値の記入には、「ツール以外で開発した SLOC 値」をご記入ください

Q2.4 稼働プラットフォーム 稼働プラットフォームのOSをお答えください (複数選択可)

1. メインフレーム 2. オフコン 3. UNIX 4. Windows 5. LINUX 6. Android
7. i-OS(iPhone, iPad 等) 90. その他()

Q2.5 保守要員種別 保守対象システムの保守要員の種別と人数についてお答えください

	専任(負荷比率で集計)		兼任(負荷比率で集計)	
	管理者	担当者	管理者	担当者
自社内	()人月	()人月	()人月	()人月
情報子会社	()人月	()人月	()人月	()人月
ベンダー・協力会社・BTO	()人月	()人月	()人月	()人月

※BTO(Business Transformation Outsourcing)

Q2.6 対象システムの経過年数 対象システムの経過年数をお答えください(複数システムある場合は平均でお答えください)

()年

Q2.7 保守作業の割合

保守作業の割合をお答えください(合計が 100%になるようにお答えください)

フェーズ別保守作業	割合
修正箇所の調査・見積	%
修正作業	%
テスト・確認	%
ドキュメント修正	%
その他()	%
合計	100 %

Q2.8 保守作業の負荷(費用)を軽減 負荷(費用)を軽減するためにどんな工夫をしていますか

()

Q2.9 保守作業の品質状況 対応した保守件数の品質状況についてお聞きます

本番に修正結果を取り込み運用開始後に発生した保守欠陥数 ()件

うち、開発時潜在バグによるもの ()件

うち、保守時に新規発生したバグによるもの ()件

Q2.10 稼働後の開発費用・保守費用

当該システムの稼働開始後に発生した費用（開発費用・保守費用）を年度別に下表にご記入ください。自社開発（業務パッケージを使用しない）の場合は①に、業務パッケージを使用した場合は②にお答えください

① 自社開発（業務パッケージを使用しない）の場合

稼働迄の費用 ^{注1}	万円
稼働迄の工数	人月

注1：稼働までにかかった開発費用全体（一括支払額）をご記入ください。

年度別費用	自社開発			
	稼働開始以降追加開発費用 注1	保守費用 注2	ツール使用料	ハードウェア、ネットワーク等の費用 注3
稼働後1年目	万円	万円	万円	万円
稼働後2年目	万円	万円	万円	万円
稼働後3年目	万円	万円	万円	万円
稼働後4年目	万円	万円	万円	万円
稼働後5年目	万円	万円	万円	万円
6年目以降（年平均）	万円	万円	万円	万円

注1：稼働1年目以降の「稼働開始以降追加開発費用」とは、当該システムが稼働開始後に機能追加・積み残し開発などの開発費用が発生した場合の費用の事です。

保守予算以外の予算措置で、保守要員以外が担当した作業費用になります。

注2：保守費用は社内外を問わず、アプリケーションプログラムの保守担当費用をご記入してください。

注3：ハードウェア、ネットワーク等の費用配分金額をご記入ください。

② 業務パッケージを使用した場合

稼働迄の費用	パッケージ名称	パッケージ 初期本体費用 注1	パッケージ 導入作業費用 注2	追加開発・パッケージ のカスタマイズ費用	稼働までの 費用合計
		万円	万円	万円	万円

注1：パッケージ費用をリース等分割支払にした場合でも、全体額（一括支払額）をご記入ください。

注2：パッケージを導入するために支払ったコンサル費用、教育費用、導入作業費用など、稼働開始までにかかったソフトウェア開発に係わる総費用（人件費・外注費）をご記入ください。ハードウェア、ネットワーク等の費用及び環境構築費は除きます。

年度別費用	パッケージ本体部分 注1		追加開発・パッケージの カスタマイズ部分 注2	
	本体費用 （稼働開始以降の パッケージ追加導入費用）	保守費用 （パッケージ使用にあたり 支払う保守費用）	稼働開始以降 追加開発費用	保守費用 （パッケージ本体保守 以外の保守費用）
稼働後1年目	万円	万円	万円	万円
稼働後2年目	万円	万円	万円	万円
稼働後3年目	万円	万円	万円	万円
稼働後4年目	万円	万円	万円	万円
稼働後5年目	万円	万円	万円	万円
6年目以降（年平均）	万円	万円	万円	万円

注1：パッケージ本体部分について

● 稼働後1年目以降の本体費用とは、当該システムが稼働開始後にパッケージ機能（モジュール）の追加により発生するパッケージ本体費用の事です。

● 保守費用とは、パッケージ本体の使用にあたりパッケージメーカー（またはベンダー）に対して毎年支払う費用の事です。

注2：追加開発・パッケージのカスタマイズ部分について稼働1年目以降の「稼働開始以降追加開発費用」とは、当該システムが稼働開始後に機能追加・積み残し開発などの追加でアドオン・カスタマイズの開発費用が発生した場合の費用の事です。

● 保守費用とは、当該システムを保守するにあたり要する、パッケージ本体部分の保守費用以外の全ての費用の事です。自社の保守要員がパラメータの設定などに要する作業費用や、アドオン・カスタマイズにより開発した部分に対して支払う保守費用等が含まれます。

Q2.11 納期遅延率

実際に対応した保守案件のうち、保守作業開始前に定めた目標リリース時期に間に合わなかった保守の割合を概数比でお答えください

納期遅延率()%

Q2.12 納期遅延の原因 納期遅延の自責による主たる原因を、上位3項目を選び順位をお答えください

1. 工数見積りが甘かった
2. 作業中にミスが多発した
3. 担当者の技術的スキル不足
4. 担当者の当該システムの理解不足
5. 手順書、チェックリストなどのドキュメント不備
6. 保守環境整備の不備
90. その他 ()

Q2.13 ツール利用の有無 保守作業において利用しているツールをお答えください(複数選択可)

1. 業務フローやワークフローの分析に使う
2. データモデルの作成に使う
3. 設計の支援に使う
4. プログラムの自動生成に使う
5. UI の作成に使う
6. テストシナリオの抽出に使う
7. テスト実行、結果検証に使う
8. リポジトリを活用して保守作業の効率化を図っている
9. インシデント管理・問題管理
10. 変更・リリース管理、バージョン管理
11. 構成管理
90. その他 ()

Q2.14 テストツールの利用目的

テストツールを使用している場合、使用しているテストツールの機能はどのようなものかお答えください(複数選択可)

1. テスト結果の比較を行う
2. テスト手順をシステムに記憶させておき後でテスト手順を再現する
3. データベース間のデータ整合性をチェックする
4. テストケースを自動生成する
90. その他 内容をご記入ください ()

Q2.15 成果品質満足度 当該システムの保守作業(成果)のユーザー満足度をお答えください

1. 非常に良い 2. 良い 3. 普通 4. やや悪かった 5. 非常に悪かった

Q2.90 その他

保守調査について、今後調査をしてほしい項目、指標などがございましたらご記入下さい

()

以上、ご協力ありがとうございました。